

宮島歴史民俗資料館：展示館 A

江上家によって建てられた土蔵に、宮島の日常生活で使用されたさまざまな民具が展示されています。主屋に隣接するこの土蔵は石畳の床、非常に厚い壁、耐火性の天井を備え、重要なものを保管するために使用されていたと考えられますが、その具体的な目的は不明です。壺、釜、きのご狩り用のかご、鋸、さまざまな農具などが展示されています。

鋸は地元の木こりによって使用されていたものです。江戸時代（1603～1868）には、木こりは間違った木を伐採しないように注意する必要がありました。広島藩の大名は、宮島の森林の広範囲を所有していました。島の住民は島のほとんどの木の伐採を厳しく禁止されていました。現在も禁止されていますが、その理由は宮島が自然保護区になったためです。展示されている農具が鋸の数よりも少ない大きな理由は、明治時代（1868～1912）まで宮島では農業が完全に禁止されていたためです。島自体が神が宿る場所として崇拝されていたため、土地を耕すことは禁じられていました。1800 年代後半に数世紀間の禁止が解除されましたが、その後も農業が本格的に展開されたことはありません。小さな畑が開拓されましたが、シカやイノシシによる被害が農業の展開を阻んできました。